

首都圏大曲会会報 第29号

ふるさと大曲

編者 渡谷一男

令和2年12月発行 発行所：〒162-0054 東京都新宿区河田町6-6 教育情報プロジェクト気付 首都圏大曲会事務局
電話 03(3341)6339 FAX 03(6273)0081 eメール：info@e-prosjp.com http://www.supportlife.com



上は、第11回「四ツ屋まつり」の
パフォーマー、下は祭り参加者
と懇談する、老松博行大仙市市長



秋の富士見市の難波田
城公園、下は、大曲・
丸子川岸に建つ「はな
びアム」の夜景



まるびちゃん

新型コロナをぶっ飛ばせ!

首都圏大曲会



2020年“大曲の花火”秋の章より 右は、大会提供花火① 左は、和火屋提供 自由玉

秋田県特別栽培農産物認証

うちしろきん
内城菌パワーで

こだわりの

有機米

『アキタコマチ』

安全・安心

食感が自慢です。

こだわりの

アキタコマチは

今年も豊穡な秋田の

土地で、日本一の

美味しさに惚りました。

*内城菌農法

画期的なパワーを発揮する内城菌は、従来厄介者として処理されてきた食物、魚肉、野菜等から出る生ゴミを、有機肥料としてリサイクルします。これで土壌は生まれ変わり、植物は栄養分を吸収し易くなり、ここに有機肥料による「内城菌農法」が可能となります。生産者佐藤久男氏のこだわりは、この肥料を使って生産する安全・安心の有機米「アキタコマチ」です。

秋田の豊かな土地で育ったアキタコマチ。「お正月の美味しいお米、ピッタリね」と、今井通子様と石川直美様の仲良し親子
(神奈川県横浜市港北区)

内城菌パワーの有機米

アキタコマチ

愛用者のお宅 訪問



「新米の味は格別に美味しい」と、肥後ミツ様
(千葉県八街市)



「こだわり米の**アキタコマチ**」 注文Fax番号: **0187-62-5614**

ご注文の方は、どうぞFaxでお申込みください。

特別栽培こだわり米	5 kg袋	10 kg袋	20 kg袋
①減農薬 化学肥料不使用 (内城菌有機肥料のみ散布土壌)	3,000円 (個)	5,000円 (個)	9,800円 (個)
送料ご負担分	1袋200円	1袋400円	1袋400円
②減農薬 化学肥料40%使用 (内城菌有機肥料+化学肥料散布土壌)	2,300円 (個)	3,800円 (個)	7,500円 (個)
送料ご負担分	1袋200円	1袋400円	1袋400円
ご注文合計数	(個)	(個)	(個)
品物+送料合計	円	円	円

ご住所⇒ 〒

お名前⇒

電話⇒

◆販売量に限りがございます。売切れの節はご容赦願います。

○お問合せなどはご遠慮なく、お電話かFaxでお寄せください。

〒010-0103 秋田県大仙市高関上郷字高屋敷42 生産・販売者 佐藤 久男

電話0187-66-1702 Fax0187-62-5614

いつもありがとうございます



ドイツ伝統製法ソーセージ&ハム

株式会社 嶋田ハム

各種 贈答品承ります



TEL.0187-62-3278 平日 9:00 ~ 17:00

首都圏大曲会会報 『ふるさと大曲』 第29号 目次

〔随想特集〕 わがふるさと大曲 ―懐かしいあの頃、あの風景…………… 4

手塚正安・田口元也・高階光義・大釜茂璋・川原潤哉・大友昭三

大曲の花火 ―秋の章「光明」…………… 10

新型コロナウイルス対策万全「花火のまち」に活気呼び戻す

秋の叙勲 栗林前大仙市長「旭日中綬章」の榮譽…………… 13

◇大曲の自慢

花火伝統文化継承資料館「はなびアム」を訪ねて…………… 14

〔大仙市で活躍する企業〕

利用者の身になって奉仕する「大曲エンパイヤホテル」…………… 18

地域住民の熱意を結集して

第11回 四ツ屋まつり 盛大に開催！…………… 21

カメラ紀行 (埼玉県富士見市・難波田城公園) 旅人・小川 康…………… 24

第12回「東京で、大曲の花火」を

観る会」中止のお知らせ 23

首都圏大曲会は「ふるさと納税」

に協力します 26

思い出の中の景色

昭和30年代大曲・須和町境界 27

「懐かしい大曲」の写真を探しています 27

編集後記 27

(写真・編集資料協力

大仙市、四ツ屋公民館、田口元也、大釜俊洋、小川康、鈴木繁)

地域の元気のお役立ち♪



株式会社 夕カヤナギ

Tel. 0187-62-1234 (代) http://www.e-takayanagi.com



私にとって「大曲」の原風景は、小学生の時に見た大曲駅前の光景である。
私は父が戦死し、また空襲が激しさを増してきたため、昭和十九年の秋に東京から亡母の故郷である秋田に疎開してきた。刈和野町の叔母の家に厄介になった後（昭和二十二年に刈和野小学校に入学。そ

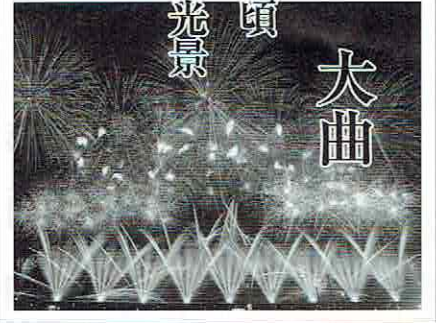
大曲の思い出

手塚 正安

わがふるさと

懐かしいあの頃

あの光景



大曲

の時の校長先生が大釜会長の父上だった、その年の夏に土川村の母の生家の一隅に移り住んだ。

大曲には黒瀬にある母の養家によく行った。

私が小学生の時は、大曲はまだ「町」だった。刈和野からは車で、大曲駅に着いてホームから階段を上がり、線路をまたいで改札口を出る。このことだけで、何と大きな駅だろうと思ひ、駅舎を出て広場を眺め、舗装された大通りが伸びているのを見ただけで、都会にきているという感じがした。

さらに、大通りの左側には藤瞬書店、月岡劇場&映画館、高柳デパートと続き（大通りの右側の記憶は全くない）、

そうした建物を見るだけで胸をわくわくさせていた。

その月岡劇場の真後ろに当たる黒瀬に私の祖母の兄の家、大久保家があった。私の母はこの家に下宿して大曲高等女学校（現在の太曲高校）に通い、卒業後はこの家の養女になり、さらにこの家から東京の私の父に嫁いだ。

母が嫁いでから、今度は母の弟が養子に入ったので、私にとっては祖母の兄の家であり、母の養家でもあり、そして叔父の家でもあった。

大久保家の隣が天理教の教会で、時折、大きな太鼓の音が鳴り響いていた。

国鉄に勤め、大曲機関区で列車の運転士をしていた叔父は、私が大久保家に泊まった時に「機関区の風呂に入りに行こう」と、大曲駅の奥にある機関区に



筆者の高校時代、「大曲の花火」見物で集まった友人たち
(右端は筆者、左から二番目が元県会議長の辻久男氏)

連れて行ってくれた。機関区までは線路を横切って行かなければならなかったが、転轍機の操作が行われたのか、足を上げた瞬間にレールが動き足に乗った場所が閉じてしまった。間一髪助かったが、遅かったらレールに足を挟まれて足首が砕け、身動きできない状態で、列車に轢かれていたかもしれない。後で、母と「戦死したお父さんが守ってくれたんだね」と話し合ったことは、未だに忘れない。

私が小学四年か五年の時

乳頭温泉郷

黒湯温泉

〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生内字黒湯沢2-1
TEL 0187-46-2214 FAX 0187-46-2280
HP <http://www.kuroyou.com>



大曲商工会議所

会頭 佐々木 繁治

〒014-0027 秋田県大仙市大曲通町1-13
TEL 0187-62-1262 FAX 0187-62-1265
E-mail : kaigisho@omagari-hanabi.com
URL : <http://www.omagari-cci.com>

に、病気になった母が大久保家で一か月ほど療養したが、当時家族が住んでいた土川村から私が連絡係で通い、さらに母が家に戻ってからは、薬を貰いに仙北組合病院かこの家によく寄っていた。冒頭の大曲駅の記憶はその時のものである。

優しかった大曲の花火 中興の佐藤勲氏の奥様

忘れられない人は、「大曲の花火」の中興の祖」として知られる佐藤勲氏の奥様、りゑ夫人である。母の大曲高女時代の一番の親友だったということ、母に連れられてよく大曲高校の近くのお宅（確か大きな家具店を経営。後に店は丸子橋の傍に移転したと聞く）にお邪魔させていただいた。りゑ夫人は、明るく優しい方で、言葉遣いも柔らかく、若くして未亡人になった私の母と子供たちを思いやっていたか、いつも欲待してくださり、私と二人の妹は「りゑおばさん」と呼んで慕っていた。勲氏が在宅されている時に挨拶すると、「こやかに」ゆっくりにしていきなさい」という

声を掛けてくださった記憶がある。

私の妹二人はそれぞれ大曲高校に進み、在学中も時折、お邪魔をさせていただいていて、上の妹は「りゑおばさん」に戴いた壁掛けや細工物を、現在でも大事にしていると言

う。
ちなみに、勲夫妻の長男隆一さんは私と同年齢であるが、今でも現役の社長である。次に大曲によく行くように

懐かしい秋田の味

田口 元也

秋田の味といえば、「きりたんぼ」「ハタハタ」「いぶりガッコ」が定番でしょう。「いぶりガッコ」の呼称はテレビの料理番組などでも普通に使われており、今ではどここのスーパーマーケットでも入手できる、



なったのは、昭和二十九年に秋田高校に入学し、秋田市まで汽車通学をし始めてからである。大曲中学校から進学して同級生となり、且つ汽車通学の仲間となったのが「菓子司つじや」の辻久男君、仙北報知新聞社の千田耕成君、母の大曲高女時代の級友の息子佐藤智也君（一歳年上だったので智さんと呼んでいた）で、よく一緒に行動していた。大曲駅を出て右手に仙北報知新聞

全国的地位を占めるようになってきました。

しかしながら、まだまだ秋田人なら誰もが知っている懐かしい味は沢山あります。列挙すればキリがありませんが、例えば、山菜の「わらびのおひたし」、山菜の「ミズとカド（鱧）のかやき（鍋料理）」などは、秋田では、春を告げる懐かしい忘れ得ぬ味です。

私は、小学校2、3年生のころは、大曲の金谷町に住んでいました。ちょうど家の前は大農（大曲農業高校）で、大農の野球場が恰好の遊び場でした。そのころは、大農の畜産科でとれた搾り立ての牛

聞社があり、高柳デパートの前を右に曲る通りには辻君の家があり、お邪魔したことがある。

辻君は笑顔が素敵な好青年で、男女を問わず周囲の人を引き付ける魅力があった。後年、秋田県議会議員を務めたのも頷ける。平成二十一年に叙勲されて上京した際、お祝いの酒を酌み交わしたのも良い思い出である。

この時代、大曲の花火は丸

乳を毎日のように飲んでいました。今は販売されているかわかりませんが、その味はスーパーで売っているパックの牛乳では味わうことの出来ない濃厚なものでした。

このような大農の生徒がつくる農産物の加工品は、東京駅八重洲の大丸百貨店東京店で開催される「全国農業高校収穫祭」で購入できることを最近知りました。そこで販売されている濃い味のブドウ液も、子どもの頃からの忘れられない大好きな味でした。

今でも大農の収穫祭では、「大農のブドウ液」「大農のブドウジャム」は大好評のよう

子橋の右手の河原で行われており、大曲の仲間と花火を観ないで知り合いの女子高生を探して、枚敷の下をウロウロしていた記憶がある。

私は、十五年ほど大曲の地を訪れていない。駅前的发展ぶりも写真で見ただけである。この思い出を綴りながら、コロナ禍が終息する見通しが立ったら、早速訪れたいと切に思う。

（千葉県船橋市在住）

昭和35年頃、諏訪町の田口さん宅も田んぼの真ん中だった



です。
子どもには厄介だった
ハツタギの足

小学校高学年のころ須和町(寺町)に引っ越ししました。須和町では中学校まで過(こ)しました。

今では住宅が立ち並んで、私たちが住んで居た頃の広々とした田園風景の面影はまったくありません。当時は家の周りの田んぼで、ホタルの乱舞が見られました。秋の稲刈りのシーズンともなると、刈り取った稲のササガケにイナゴが群れをなしていました。イナゴは、ハツタギと言っていました。子どもたちはハツタギ捕りに夢中で、大きな袋いっぱい詰め込み、母に甘い佃煮にしてもらいました。佃煮にしたハツタギの足は歯にひっかかり、おいしいが随分厄介な食べ物でした。

高校時代は父の仕事の関係から、日本海に面した西日町(当時は村)に引っ越ししました。ここでの味の思い出は「ぶりっこ」(ハタハタの卵)です。

昭和37、8年ごろハタハタ



高階 光義 (中良野会)
大曲の思い出 (西山編)

(埼玉県所沢市中沼在住)

は、まだ箱で買える時代です。冬の海岸に出ると砂浜にぶりっこが、箒で掃き捨てるほど打ち上げられていました。バケツいっぱいにくっつたぶりっこを醤油で煮込むのですが、食べると口の中で、卵がプチプチはじけて、汁が口の中いっぱい広がります。私たちにとって冬の大切な蛋白源でした。今ではハタハタは、乱獲によって以前のように獲れなくなりしましたが、浜に打ちあげられたぶりっこも捕獲が禁止となっています。

昭和30年、大曲中学校を卒業してから65年の歳月が流れ、私も81歳になった。私の旧実家は上栄町で当時の大曲市役所の向かいにあった。家は平屋だったから何かにつけてよく屋根に上った。見渡すと西山の連山、正面には大平山、福伝山が良く見え、左に目をやると遙かに白雪を抱いた鳥海山が、今でも目に浮かぶ。

生が引率して、教室のストロブ用の焚き付けの「杉の葉拾い」で、天神山・お薬師さん周辺へ行った。みんな炭俵を背負い、拾った杉の葉を俵一杯にして帰った。この行事が中学校まで続いていて、必ず通るのが長い金谷橋だったが往復10キロ以上ある道のりをよく歩いたものだ。

日頃は自分がガキ大将だから、近くの子供が集まって遊んだが、たまには天神山・お薬師さんへ5、6人で行った。夏場は大きな「にぎりめし」を持って、天神山の沢で「石っこ研ぎ」をしたり、お薬師さんに登り、くるみの木の枝で作った木刀で「チャンバラっこ」や、アケビや藤の蔓につかまって「ターザンごっこ」をした。



筆者少年時代の遊び仲間。正面から見て後列左端が2歳年下の光智さん、その前が11歳離れた弟光榮さん(市役所正面の道路で)

沢にはカニや、山椒魚がいるほど、とにかく冷たく綺麗な水だった。散々遊んだ帰り道は、よその畑から失敬したキュウリや道端のスカナを、



水清い天神山から流れ出る沢遊びにも興じた



大盛橋から望む西山一帯。右側の高い山は大平山、左が福伝山。大平山手前のこんもりした山は松山。今でも大曲の憩いの場だ。

腰に下げた「塩っこ入れ」からピンク色になった塩をつけて食べた。

とにかく何時でも腹がへっていたから、食べられるものはすべて口にした。

野イチゴ、シグレ、ウメ、スモモ、ナシッコ、グミ、桑の実、山ゲリ、アケビ、イナゴ、ドジョウ、ナマス、タニシ、ザッコなどが懐かしい。

楽しかったお薬師さんで1泊キャンプ

中学3年の夏休み、ガキども5〜6人でお薬師さんへ1泊キャンプに行った。夜はさすがにお堂の中では暗く怖くて、おぼけ大会はやらなかった。ただ冷たい沢水で炊いたメシは格別であった。翌朝、大平山山頂に行かなかったのが、今思えば心残りであるが、恐らく参加した小さいガキどもの事を思っただけでなかったと思う。それから2年後の高校2年の秋、幼なじみの高橋豊治君と隣家の佐野正継さん（故人）の3人で天神山に行ってみた。周囲の環境はすっかり変わり、沢水は以前と同じように冷たかったが、カニや

山椒魚は私の目では見当たらなかった。その当時から60年以上も経緯したふるさととはどんな自然が、帰省する我々を出迎えてくれるのだろうか。

大曲在住の弟、光智との会話を交わしながら、ふるさと大曲の、遙かな懐かしい自然に思いを馳せるのである。

（千葉市稲毛区在住）

思い遙かな故郷の浅い春に寄せて

大釜 茂 璋



秋の長雨とは言いますが、この年の十月は、うんざりするほど雨の日が続きました。気象庁の発表によれば東京では、十九日間のうち太陽が照つた日はたったの一日だったとか。「それじゃあ、あんまりだよ、お天道さん」と言いたく

なる日の連続でした。

その様な天気が続いたある日、いつの間にも雨が止み、気が付けば部屋の奥まで、日足の長い秋の陽が差し込んでいました。

一人ぼつねんと書斎に閉じこもり、ふと気が付くと、

「ぼつとん、ぼつとん」

リズムカルな音が聞こえます。

いつか聞いたことがある、妙に懐かしい感覚の中で、やわらかに眠気を誘う、それは確かにどこかで聞いたことのある音。あれはどこで聞いた音だろうと思いを巡らすうちに、「そうか」と昔の記憶が甦り、はつと気付いたので。

それは遙か子どもの頃、春先の眩しい陽光の中で、屋根に積もった雪が融けだし、ツララを通って軒先に落ちる滴（しずく）の音だったのです。一人留守番をしていた、鳥の声すら聞こえない静かな昼下がりが、孤独感漂う中で聞いていた、雪融けの、気だるいような滴の音でした。その雨だれの音を聞きながらしばし、遙かな少年の日の、雪国で過ごした春先の思い出に更けつたものです。



今は夏。雪が降るとこの屋根の上にも綿帽子のように雪が積り、春の気配を感じる頃は、滴がリズムとなって心地よい音となる

地球温暖化が顕著なこの頃では、降る雪も少なくなつたようです。私たちの少年の頃の降雪量は、住んで居る処が仙北平野のど真ん中、大曲市でも豪雪地帯に当たるとはいえ、それは半端な降り方ではありませんでした。東京に出て学生生活を送り、雪のない地方で育つた友人などに、子どもの頃に経験した豪雪のすさまじさを話すのですが、友人にその光景は、一概には信じて貰えませんでした。

「電線をまたいで歩くほど積もつた」、「家に入るには、戸口につくつた雪の階段を下りなければならなかつた」など、我れながらちよつと誇張して話すと、友人は「どういうことだ」と言つたふうに驚き、雪国の生活は想像できないとばかり、まるで信じられないような顔で聞いているものでした。

**雪国生活だからこそ
味わえる春の嬉しさ**

しかしそんな環境の中でも、雪国だから経験できる生活の楽しさがありました。

子どもたちはまるで雪が天からのプレゼントのように、スキーや橇遊び、雪合戦、春先に出現する、広々と解放的な雪原と化す堅雪の楽しさ、大人も交じつて楽しむ「かまくら」や「雪ダルマづくり」、冬だから立つ市（いち）や威勢の良い梵天祭りなど、雪が降る冬だからこそ出来る生活の楽しさを、存分に味わつていました。

雪国での生活の楽しさを思い返す度に、あの豪雪の後にやつて来る春の兆しを感じる喜びは、厳しい季節を乗り越えた、生きる自信を感じます。春がそこまで来ていると言う希望と喜びが入り混じつた心弾む情感は、雪国で暮らす人々の、誰もが持つことの出来る特権だろうと思います。

「ほつとん、ほつとん」
水晶玉の透明の輝きにも似た、屋根から落ちる雪融けの滴の音は、雪国の浅い春を象徴する心地よいリズムであり、雪のない地方の人々には想像できない音でもあるのです。



やがて雪国にも春の陽光がさんさんと降り注ぎます。屋根から降ろされて積み重なつた雪も融けかかり、子ども達の手で、残された雪で小川がつくられ、陽の良く当たるところには、久しぶりに黒い地面が顔を覗かせます。その僅かな乾いた地面に女の子は筵（むしろ）を敷いて、ままごと遊びに興じているものでした。雪融け水の小川には、子ども達お手製の水車がクルクル回っていたり、セルロイド

大曲の夜空に 大輪の 咲く日を待ちわびる

— 丸子川岸を散策して

川原潤 哉

(大仙市まちづくり課主任)



真夏のピークが足早に過ぎ去つていくと、北国の大曲はあつという間に秋の気配が濃

の黄いろのアヒルを浮かべたり、ブリキの金魚を泳がせたり、春の陽光を浴びて夢中で遊びに興じるのも、厳しい冬を通り抜けて来た雪国ならではの、心躍る春の遊びの楽しさでした。

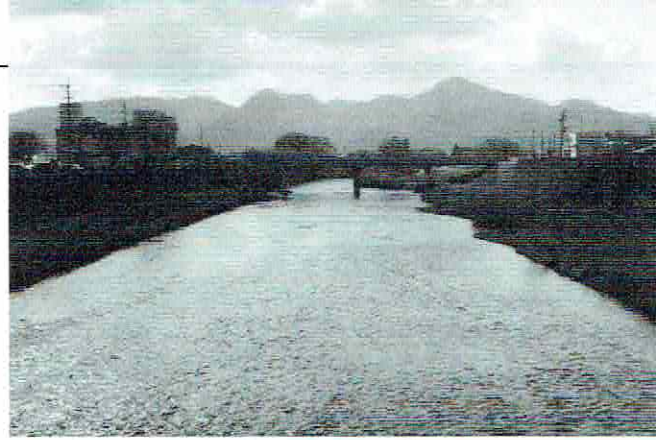
新型コロナウイルス禍だけでも、ただただ憂鬱と思つていた今年の秋の長雨。気づかなければ、ごく単調に屋根から落ちる水滴の音が、ふともたらしくれた、遠い少年の日の感傷を呼び起こしてくれました。

(東京都新宿区河田町在住)

く漂い、寒くなって来ます。

先日、僅かばかり残された秋を感じてみようとして、丸子川沿いを散策してみました。丸子橋のたもとに、とても美味しいコーヒースタンドがあるので、そこでコーヒーを買つて、川にかかる柳が揺れる様や、きらきら光が反射する静かな川面を眺めていると、日頃の忙しさも忘れ、少しずつ心の和らぎを感じました。

これほど穏やかな川も大雨ともなると違った顔を見せ、時には牙をむき、近隣に大変な被害をもたらすことがあります。



春夏秋冬、花火は西山を背景に大曲の夜を飾る

ます。私たち市の職員は一丸子川排水班」を組織し、有事の際は直ちに現場に駆け付ける万全の態勢で臨んでいます。そのような不安な中にあっても、首都圏ふるさと会のみな様を初め、県内外の知人友人などから、心配とともに温かい励ましの声が届くと、私たちのまちを思ってくれる方々がこんなに沢山いるのだと、とても心強く感じます。災害時に限らず、「このまち」に住む人、「このまちに思いを馳せる人」が、少しずつでもそれぞれの想いを持ち寄ること、どのような課題でも一緒に乗り越えていけるのではないかと感じるのです。

しかしこれまで、数多くの困難や大雨にも負けず開催を続けて来た「大曲の花火」も、この度の新型コロナウイルス禍によって、残念ながら来年に延期となりました。これによって大曲の夏は、例年とは違う活気の失せた夏になってしまいました。しかしそれを跳ね返す活力を感じ

田植えの頃 懐かしの「農繁日記」

大友 昭 三



今年は新型コロナウイルスの影響で、お花見、気の合った仲間たちが集う「お酒愛好者の会」、そして旅行や音楽会など、いろいろな行事が中止や延期になり、自粛生活やを経験しました。特に三月から五月にかけては、こんな時にこそと、数年前から始め

じたものでした。今夏大曲ではサプライズ花火として、毎週のように、どこかで花火の音が聞こえていました。やはり大曲は花火の町。スケールは小さくても、その迫力と美しさを、わが家から眺めたり、河川敷に出かけたり、あるいは静かに耳を澄ましたり、それぞれの楽しみ方で花

ていた終活の続きをやることにしました。ここでは内小友中学時代の日記を読み、当時の懐かしさに浸ったものです。探し出した写真からその思いは益々深くなりました。



田植えは農家の際繁忙期 畦から苗を上手に放る

火大会のなかった大曲の夏を過ごしました。とは言っても、花火大会の日の、大曲のまちの賑わいを待ちわびる気持ちは、きつとみんな同じです。今はただ、あの大輪が開く夜空の下で、多くの皆さまをお迎え出来る日を、心からお待ち致しております。

出て来た日記は2冊で、特に「農繁日記」は、農家が年中で一番忙しい田植えの時期に、学校もそれに合わせて休みになり、その期間の宿題として、毎日を綴ったものです。日記には担任の先生の朱も入っていて、それが特に懐かしく、ちょっと恥ずかしさが残りますが、与えられたこの機会だから、そこを一部抜き出して書いてみました。

三年A組 大友昭三
五月三十一日(火)
曇り時々晴又雨
近所の家の手伝いでかけるので、朝はずいぶんと忙しかった。

田植えの八人相手に苗投げである。これもなかなか忙しい仕事である。植える方は皆近所の母さん方である。

何も言わないで植えるのもつまらないから、よくしゃべること。いろいろな人のうわさ話、冗談を言ったり。話にタネがつきると鳥のことや蛙のことまで話に出してくる。話はつきることなく続く。(中略)

☆
苗が足りないとか、違う苗とかいろいろ言われて忙しい一日であった。

田植えの手伝いときの近所のお母さん方の賑やかな声があきらかに聞こえてくる。

この日記を書いた頃は、農業も機械化が導入される一方で、古い農村の伝統的な形態、昔からの「むら」の習慣が色濃く残っていました。そのようなことから新旧入り混じっていて居心地が良い、生活環境で、過ごし易い時代だったと思います。

自粛期間中の、ちよつと嬉しい時間でした。
(埼玉県所沢市北原町在住)

大曲の花火 —秋の章— 光明

の 夜空に豪華 8000発 打上げ

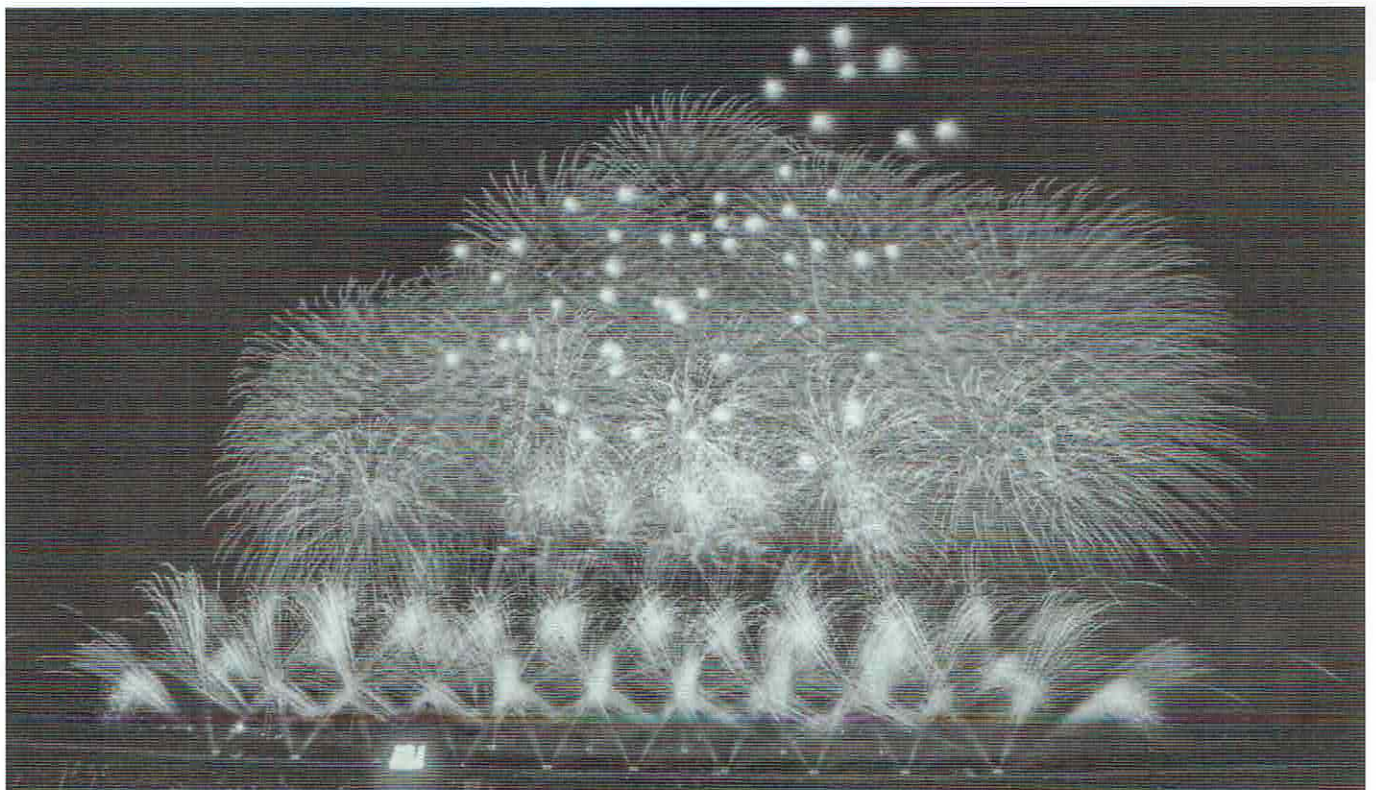


コントラストの見事な創造花火

令和2年10月10日、「大曲の花火」公園（大仙市大曲雄物川河畔）を会場に、大曲の花火・秋の章が、「光明」をテーマに華やかに開催されました。

大曲は春夏秋冬・四季を通じて花火大会があるという、全国で名立たる「花火のまち」です。今年は、中国に端を発すると言われる新型コロナ禍の影響をまともに受けて、三月の「冬の章」「世界の花火日本の花火」、新進花火創作者の登竜門といわれて高く評価される五月の「春の章」「新作花火コレクション 2020」が中止を余儀なくされ、加えて毎年八月最終土曜日に開催される、伝統の「大曲の花火（全国花火競技大会）」も来年夏に延期されました。

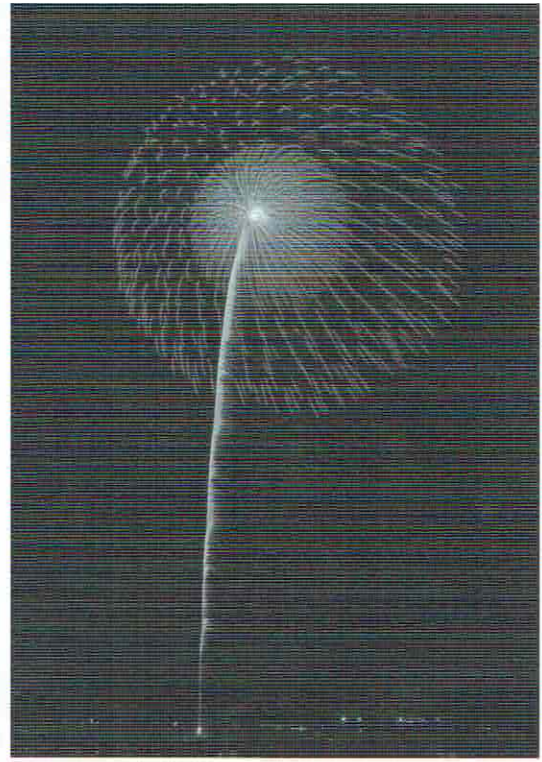
それだけに秋の章は、新型コロナ何するものぞという意気込みをもって、感染拡大対策に慎重かつ万全を期す、「花火のまち大曲」たる面子をかけた花火大会です。市民を含め花火関係者の熱い心が反映された、「大曲の花火・秋の章」でした。



豪華に光の展開する創造花火

新型コロナへの万全対策

「花火のまち」に活気呼び戻す



しっとりと開く(小松煙火 古木利昌)



響屋提供の創造花火

- 1、オープニング花火
- 2、大玉割物競演
- 3、ワイドスターメイン
- 4、ファイナル花火

新型コロナの感染策について主催者側は、細かな気を遣った対策を講じ、三密を避けるために有料自由観覧席は設けず、一人用パイプ椅子席と二名が着席出来るベンチ席のみ。通常の大会ならば大いに賑わ

う露店も禁止されました。仙台から来たという谷川伸三さん(32)は、「友達と二人で来ました。今年初めての花火見物でしたが、会場の整備とともに整然と行われた大会の質の高さに感激しました」と、興奮気味に話していました。コロナ禍渦巻く中、熱い気持ちで開催された「大曲の花火・秋の章」でした。

新型コロナ感染防止のために、花火観覧者は青森県から福島県まで、東北六県在住者に限ったことは、長い「大曲の花火」大会の中でも画期的なことでした。三密を出来る限り避け、不特定多数の集合を避けるために、やむを得ず採った策であり、花火関係者の苦渋の決定が偲ばれました。

秋の章の花火
打ち上げ数は約
8千発。

会場はお馴染みの大仙市大曲の雄物川河畔に整備された「大曲の花火」公園。冬、春、夏と連続三回も中止または延期の後だけに、多くの花火ファンの待ち焦がれた花火大会となりました。大会の内容は次の通りです。



斬新なアイデアを持った大会提供花火



小松煙火店の芯入割物



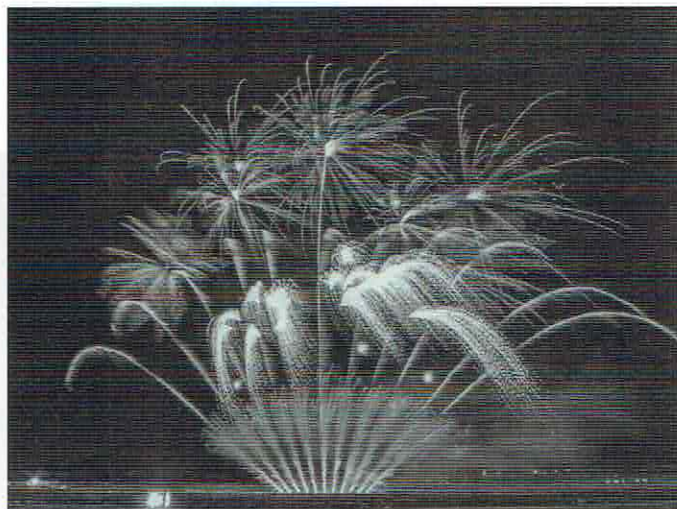
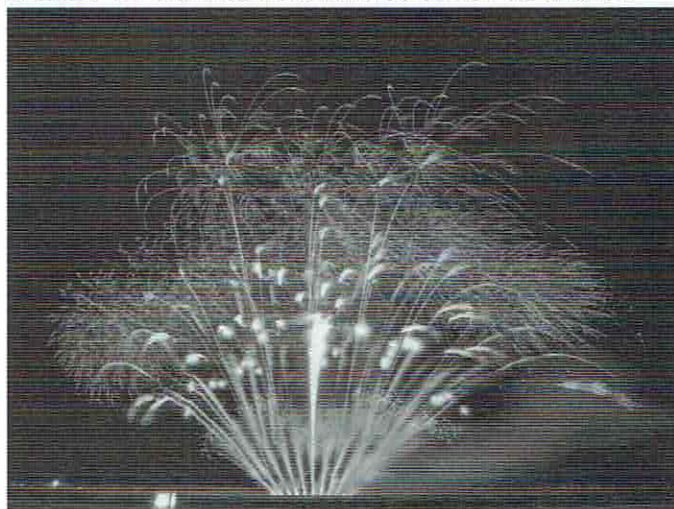
勇気を与えた「困難を乗り越えて」

新型コロナ感染拡大防止

観客は東北六県在住者に制限

「花火のまち」の花
火師たちも、大曲の花
火の粋を示そうとばか
りに、それぞれ力の
籠った花火を打ち上
げ、地元と大勢の観衆
の期待に応えました。

新型コロナをやっつけろとばかりの勢いで躍動した、大会提供花火



伝統の銘酒
かりほ

大地の恵みとともに
秋田の心を醸す

雪蔵銘醸
てっわ

出羽鶴
つる

秋田県大曲市戸地谷字天ヶ沢八三〇
秋田県大曲市戸地谷字天ヶ沢八三〇
秋田県大曲市戸地谷字天ヶ沢八三〇

TEL 0187 (63) 1224
FAX 0187 (66) 2277

<http://www.igeta.jp/>
e-mail info@igeta.jp

心と心のふれあいのスペース

ご宿泊・レストラン
各種ご宴会に
ご利用をお待ち申し上げます。

大曲エンパイヤホテル

〒014-0015 秋田県大曲市大曲白金町8番17号
Tel 0187-63-1131 Fax 0187-63-1541
URL <http://o-empire.com/>

令和2年秋の叙勲

栗林次美前大仙市市長 旭日中綬章の榮譽に輝く！



栗林次美氏

(前大仙市市長)

政府は11月3日、文化の日を期して令和2年秋の叙勲受章表彰者を発表しました。これによりますと、栗林次美前大仙市市長が旭日中綬章の榮譽に輝きました。旭日中綬章の受賞者は全国で42名。栗林前市長はこの一人に選ばれたものです。

これに先立ち大仙市は、誕生15周年を記念して10月11日、市の発展に貢献された人・団体に表彰状や感謝状を贈りました。栗林前市長には功労者第1号として、証状と功労者賞が贈られました。

栗林前市長は、秋田県会議員を3期務め、平成15年10月の大曲市長選挙で初当選、第6代大曲市長に就任。引き続き大仙市長に選出され、市の発展と福祉の向上に尽力されました。

大仙市誕生15周年記念表彰式

市発展の功労・功績者

久米正雄前副市長、三浦憲一前教育長ら表彰



久米正雄氏

(前大仙市副市長)



三浦憲一氏

(前大仙市教育長)

大仙市は平成17年3月22日に誕生し、今年誕生15年の節目を迎えました。生憎新型コロナウイルスの感染拡大で、3月に予定されていた祝賀会も、秋に延期されていきました。ご承知のようにコロナ禍は収束の兆しが見えないところから市は10月11日、「大仙市誕生15周年記念表彰式」を大曲市民会館で挙行了しました。功績者として表彰を受けた方々のうち、首都圏大曲会と強い関係者としては、前大仙市副市長の久米正雄氏が地方自治功労者として、前大仙市教育委員会の三浦憲一教育長が教育功績者として表彰されました。

久米正雄前副市長は、平成17年に初代助役に就任後、3期17年の長期にわたって副市長を務め、市長補佐役とともに、多岐にわたる諸問題に真摯に取り組み、市勢発展に努力されました。そして市内に複数ある第三セクターの代表取締役として、各社の舵取りを担い、事業の健全な発展と経営に寄与されました。三浦憲一前教育長は、平成18年に大仙市の2代目教育長に就任、3期9年余の長期にわたって教育行政の発展に寄与されました。大仙市誕生後の新たな学校教育の指針となる「新しい時代の学校教育だ いせんビジョン」を策定し、ふるさと教育の進展や、地域に開かれた学校の推進などを図り、学校教育の適正化にも尽力されました。大仙市の教育は、文科省が実施する「全国学力テスト」で、常に全国トップクラスの成績を上げる秋田県教育力の原動力でもありました。(この項の資料は「だいでん日和」11月号より)

大曲の自慢

「大曲の花火」

花火伝統文化継承資料館

はなびアム (Hanabi・um)



丸子川側から見た「はなびアム」

燦然と「花火のまち」のシンボルとして

大仙市大曲は昔から「花火のまち」として全国に知られてきています。平成30年8月、花火伝統文化継承資料館「はなびアム」は、全市民の熱い期待のもと、大曲の中心地、大町の丸子川岸にオープンしました。まさに大仙市民並びに関わりのある人にとって、「花火のまち」のシンボルと言っても過言ではありません。ここは花火を愛する多くの人々の期待であり、自慢の伝統文化継承を目的とした資料館です。

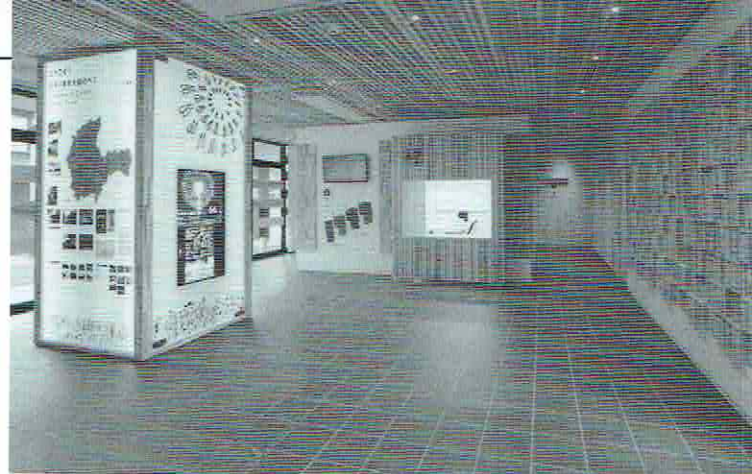


別館(展示館)側から見た「はなびアム」

ここでは、花火の歴史や製造方法、鑑賞の仕方まで学ぶことができます。常設展示のほか、市民グループの「花火伝統文化継承プロジェクト」と協同で収集・保存する花火に関する資料を企画展示する世界でも珍しい、打ち上げ花火に特化した資料館です。

また高精細な花火映像を、4面マルチスクリーンに映し出す「花火シアター」(4階)では、過去の花火大会での映像や、「はなび創作工房」で、自分でデザインした花火を映し出して見ることができま

す。また影絵作家の藤城清治さんの作品「大曲の花火」(レブリカ)も訪れる人の人気を呼んでいます。別館は秋田藩主佐竹侯が、参勤交代の際に宿泊したご本陣跡ですが、老朽化したために再建して展示館になっています。



本館1階エントランスホール 競技大会である「大曲の花火」歴代受賞者名も掲示されている



3階には日本でも貴重な花火資料室がある

花火伝統文化継承資料館
はなび・アム

■JR大曲駅下車 徒歩10分

〒014-0025
秋田県大仙市大曲大町7-19
TEL0187-73-7931
<http://hanabimuseum.jp>

ご利用のご案内

◇開館時間

■花火伝統文化継承エリア (3・4階)

午前9時00分～午後4時00分

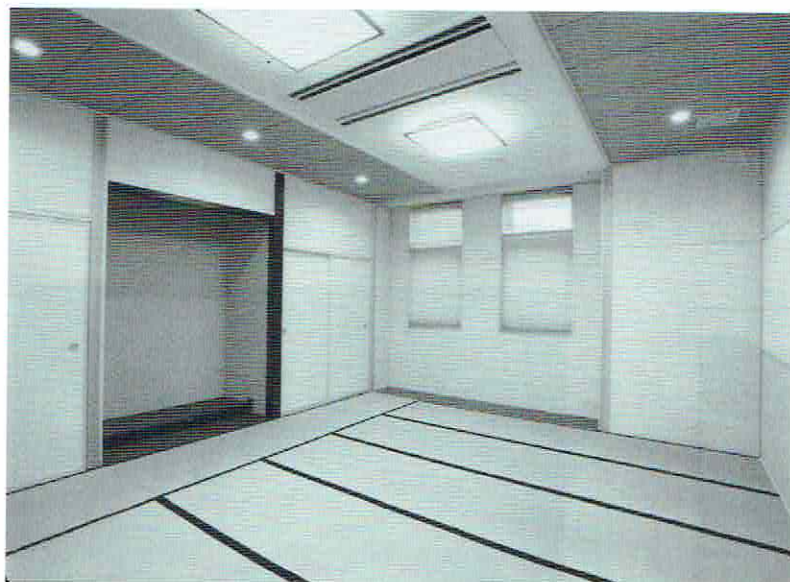
■生涯学習エリア

午前9時00分～午後9時00分

◇休館日

毎週月曜日 (月曜日が祝休日に当たる場合は翌平日)、年末年始

◇入館料 無料 ※研修室をご利用の場合は有料となります。(あらかじめご予約ください)



2階には清楚な和室も準備されている

1階・2階は生涯学習エリア 会議・研修室、サークル活動に活用

大仙市は生涯学習の盛んなまちとしても知られています。「はなびアム」は、花火文化を継承することだけに止まらず、生涯学習の場としても活用されています。移り変わりが激しい現代社会において国の教育政策は、生涯にわ

たって学習することが必要として、国民一人ひとりに、学習することを求めています。「はなびアム」は、1階・2階を生涯学習エリアとして開放されていて、会議室や研修室、サークル活動関係者にも大変喜ばれています。



8月の「大曲の花火」開始を演出する「オープニング花火」、全長800m余にも及ぶナイアガラの滝(4階の「はなびシアター」で観賞できる)

「はなびシアター」や「展望展示ホール」(4階)



4階には「展望展示ホール」や、「はなび創作工房」もあり自分でデザインした花火の打ち上げも体験できる



4階の明るく気持ちの良い展望展示ホール



2階は生涯学習の施設として活用される



はなび創作工房では自分のオリジナルの花火を楽しむ

「はなびアム」の企画イベントは、現在次の2テーマで開催されています。いずれのイベントも令和3年1月31日までです。ぜひご覧ください。

- 1、「大仙市の花火師たち」
- 2、「全国花火大会めぐり ―北海道・東北編―」

秀は

(名)鈴木酒造店
大仙市長野字二日町9
電話0187-560212

本醸造生貯蔵酒

ひでよし ― ひょうたん

お酒を注ぐ時に聞こえる「ひでよし」という音も、より一層お酒をおいしく感じさせてくれます。軽快な口当たりと爽快感をお楽しみ下さい。

300ml ¥389(税込)

未成年者の方にはお酒をお販売しません。

パンフレット・ポスター・
冊子印刷&製本など

印刷のことなら 何でも ご相談下さい。

原材料の仕入・固定コスト等、
秋田の立地を最大限に生かし
低価格・高品質の商品を
お客様にご提供すべく、
日々精進を致しております。

首都圏のお客様にも秋田協同印刷のモットーとする
『すべてはお客様のために』を『すべてのお客様のために!!』
是非お感じ下さい!

ご連絡を頂ければ飛んで参りますので、
お気軽にお問合せを宜しく願い申し上げます。

秋田協同印刷株式会社 首都圏担当

〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋1丁目39-7
ライオンズステーションプラザ三軒茶屋604

TEL.050-5820-4764
FAX.03-6320-8339

大仙市で活躍する企業



瀟洒な大曲エンパイヤホテル全景

取締役総支配人
高橋 昇氏

私たちは常に知識を吸収し専門技術を磨き、顧客の奉仕に努める

金谷商事株式会社

大曲エンパイヤホテル

新型コロナ対策 万全の防止策で安心を徹底



夜のとばりがおりて

「大仙市で活躍する企業」今号は、「大曲エンパイヤホテル」を訪問しました。大曲エンパイヤホテルは毎号広告出稿でのご協力を頂き、かつて首都圏大曲会主催の「ふるさと訪問」時、また帰郷の際に利用する多くの会員にお馴染みのホテルです。今回は、高橋総支配人にご対応頂きました。

創業 昭和51年6月8日(旧大曲グランドホテル宴会部)
本荘グランドホテル宴会部営業 昭和52年10月1日
(令和元年5月31日請負終了)
大曲エンパイヤホテル営業 昭和60年10月1日
大曲市役所食堂売店営業 平成5年9月5日
(食堂は令和2年5月終了)

創業者 金谷 博慈(角館出身・故人)
企業名 金谷商事株式会社
店舗名 大曲エンパイヤホテル
代表取締役 金谷 朋 浩(創業者の長男)
電話 0187-63-1131
FAX 0187-63-1541
eメール:empire@gamma.ocn.ne.jp
URL: <http://o-empire.com/>



2階の大宴会場

ホテルフロント



— 大曲エンパイヤホテルの概要についてご説明願います。

高橋総支配人（以下総支配人）大曲エンパイヤホテルは、宿泊を初めレストランでのお食事は勿論、各種セミナー、展示会、会議・宴会のほか、結婚式等冠婚葬祭及びケータリング、デリバリーの事業、そして大仙市役所の売店業務を行っています。

— ホテルは大きな道路に面して目立ちますが、建物の構成はどうなっていますか。

総支配人 3階、4階が宿泊室で最大定員は45名です。2階は洋宴会場700席から10席の大・中・小6室、30畳の和宴会場が1室あります。1階はレストラン洋室「ネージュ」、和室「花菜野」で、ロビー喫茶（20席）もごいます。乗用車70台が収容できる広い駐車場があります。普通車は無料、8t以上は有料です。



— 首都圏から直接予約方法は？

総支配人 宿泊の予約は、直接または旅行業者及びインターネットで出来ます。予約サイトは、「楽天トラベル」「じゃらん」



余興を楽しむ宴会出席者
右の写真は「きり亭たん方」さんの余興

「るるぶ」「一休」及び当社ホームページをご利用ください。レストランの予約は、直接当社にお願い致します。一部指定のメニューは「じゃらん」でもご予約できます。なお、GOTOトラベルを利用する観光目的の旅行者は、ホテルに直接電話でお申込みが可能です。

— レストランのコロナ対策は？

総支配人 新型コロナウイルス感染症対策には十分な対策をとっております。約半数席と席間を広く取り、各テーブル上には対面飛沫防止のアクリル板、各テーブルの間には衝立を設置しています。メニューは和室、洋室ともに共通です。

— お勧めメニューは？

総支配人 秋田牛のステーキ



チェックインにはコロナ予防対策で検温

キ、大人のお子様ランチ、秋田牛モモ肉と野菜炒め、八幡平ポークカツカレー、国産うなぎ、海鮮丼御膳、郷土料理では、きりたんぼ鍋、鱒しよつづる鍋、納豆汁御膳、稲庭うどんです。

— 宿泊客の状況は如何ですか。

総支配人 宿泊のお客様はビジネス客のご利用が多いのですが、GOTOキャンペーンにより、ご夫婦、ご友人でのご利用や、朝夕食付きのお客様が多くなりました。

魅力的な観光地巡りのベースとして

— 宿泊施設としてお勧めの近隣観光地をご紹介ください。

総支配人 大曲を起点とした観光地をご紹介します。①花



飛沫感染防止対策のレストラン



ホテル屋上からの市街(大曲駅方面)

火伝統文化継承資料館「はなびアム」(大曲大町)、②東北の三大地主池田氏の国指定名勝「旧池田氏庭園」(大仙市高梨)、③国登録有形文化財「旧本郷家住宅」(大仙市角間川)、④春・夏・秋・冬の各花火大会(大曲・雄物川河畔)、⑤冬まつり(美郷町カマクラ祭り竹打ち、花館の川を渡る梵天祭りなど)、⑥大曲市街や花火会場を一望できる「姫神公園」(大仙市花館)、⑦角館の「武家屋敷」「桜まつり」(仙北市角館)などがあげられますね。

― 地方色豊かで、魅力的な観光ができそうです。御社の経営方針・経営理念をご紹介願います。

総支配人 大曲エンパイヤホテルの社是は次の五方針です。

- 一、奉仕の途 働く私たちは常に知識を吸収し、専門技術を磨き顧客の奉仕者になるべく務めること
- 一、社会的使命 社業の発展を通じて広範な地域社会に貢献すること
- 一、社会的責任 顧客大衆の食生活をより豊かにすべく努力すること
- 一、人間性の向上 私たちは力を合わせ親しみ合い、価値ある人生と豊かな生活を私たちが自身の手で得るべく人格の向上に努めること
- 一、後継者の養成 青少年(後



レストラン「ネージュ」

輩)の指導、育成に努めること

そして「心と心のふれあいのスペース」をキヤッチフリーズに、ご来館される多くのお客様に安心してご利用頂ける地域のふれ合いの場として、「笑顔と感謝の心」でみな様をお迎えしています。

― 社員への福利厚生はどうですか

総支配人 通常の健康診断とともに生活習慣病予防の検診をして社員の健康管理に努めています。他に、親睦会の開催や社員食堂、被服貸与などです。最近では社内旅行は実施せず、新年会の開催やグランドゴルフなど、日帰りレクリエーションにしています。

積極的な地域・社会への貢献

― 町内会などのお付き合いや社会貢献活動への対応など。

総支配人 町内のみな様とは、災害時に当ホテルを一時避難場所として提供する協定並びに、AEDの共同設置をしています。それからチャリティメニューによる盲導犬育成事業への寄付及び募金活動を実施しています。各種国際ボランティアの大曲地区団体(ロータリークラブ、ライオンズクラブ、キワニスクラブ)への例会会場提供及び活動への参加、並びに大曲青年会議所への理事会会場の提供及び活動への参加等、地域・社会貢献活動にも積極的に参加しています。また中・高校生のインターンシップなど職場体験の受け入れ、地元小学生のフィールドワークの受け入れも行っています。



和食処「花菜野」(かなや)



秋田牛サーロインステーキ

― 今後、当社の運営方針は。

総支配人 今後とも当社の社是を守り、地域社会の発展に寄与できるよう頑張っています。

― 従業員や大仙市への希望や要望などについて。

総支配人 従業員には「奉仕の途」を第一に、お客様のおもてなしは勿論、本人・家族の健康と安全を大切にして頂きたいと願っております。大仙市には今まで同様、地域発展にご精励頂きたいと願い、種々施策のご努力に感謝致しております。(文責・大釜)

◆インタビューを終えて

大曲エンパイヤホテルは、大曲をふるさととする人々にとって、家族的な雰囲気のある親近感溢れる大曲の宿泊所です。レストランもそうですが、「大曲に帰ってきた」という安堵感を与えてくれる雰囲気は、社是に謳われている「奉仕の途」の精神を、社員一人ひとりがしっかりと身につけているからだと思います。

新型コロナ禍により厳しい環境下にあります。この社是の基に社員一丸で、乗り切れることを確信した取材でした。(大釜)

第11回 四ツ屋まつり 開催

地域住民の熱意を結集して

大仙市四ツ屋地区住民の絆を一つにする「第11回四ツ屋まつり」が10月17日に、四ツ屋公民館で賑やかに開催されました。今年には新型コロナウイルス禍の心配がありました。三密を避け、「こんな時だからこそ今やれることを頑張ろう」と、感染防止策を徹底し、規模を縮小して開催に踏み切ったものです。

新型コロナに万全の対策

大 lantern は展示のみ、ステージ発表中止

この日、明けがたにはばらついた雨も、祭りが始まる昼頃には止み、公民館前の広い駐車場はお祭りらしい華やいだ雰囲気となりました。

新型コロナウイルス感染防止のため恒例の大花火 lantern、ミニ花火 lantern の練り歩きは中止となり、お祭り広場への展示のみとなりました。それとともに、例年大好評のステージ発表は、観客の密を防ぐために中止されましたが、公民館ホールの「展示コーナー」では、「パッチワーク」や「押し花」、「書道」など、日頃の公民館活動の腕を披露し、大勢の参観者の目を奪っていました。

お祭りは午後3時、祭り気分もすっかり盛り上がった公民館前の、屋外の広場で開始されました。

今年もイベントの進行司会は、「FMはなび」のパーソナリティ根田朋子さんが担当しました。始めに、超多忙の中にも関わらず参加してくださった老松大仙市長からご挨拶を頂きました。「新型コロナ



はじける若さが会場にみなぎった



まつりを彩る花火 lantern - 町練り歩きは自重したがまつりのシンボルだ

ナ禍の大変な情勢の中で、地域住民の熱意と、徹底した感染防止策を講じて開催されたこの祭りを、地域の方で大いに盛り上げていただきたい」と、市長のご挨拶は力強いエールとなりました。

オープニングは今年も、四ツ屋小学校器楽部と大曲中学校吹奏楽部合同演奏の「秋田



右はまつりの開催を祝う老松市長。バックは、オープニングをかざった大曲中学校吹奏楽部と四ツ屋小学校器楽部のみなさん。①はぼんでん唄を披露した大曲54年会のみなさん

県民歌」。お馴染みのポップスや「ほえみ心のマーチ」など、美しい音色と共に、演奏者、観客として参加した住民の心を一つにして始まりました。

昨年の第10回四ツ屋まつりを記念して、劇団わらび座の岡村雄三さんが作詞・作曲し

老松大仙市長も祝福の挨拶 54会のぼんでん唄や 大農郷土芸能部の民謡手踊りなど

た「四ツ屋まつり音頭」に、地元で活躍する「ほえみシスターズ」が振付をし、お披露目しました。

このほか、大曲農業高校郷土芸能部の民謡手踊りや、若さあふれるヒップホップのダンス、威勢良くいなせな大曲中学校昭和54年会のぼんでん唄、大仙こまち百蓮曾と煌姫神のよさこい演舞などが披露され、会場は大いに盛り上がりました。

また、公民館ホールには、公民館活動として日頃腕を磨

いた「パッチワーク」や「押し花作品」、「書道」などサークル活動の見事な作品が展示されました。

今年も四ツ屋青年塾のメンバーによる屋台が並び、仲間や家族連れなど、楽しく飲食する姿が見られ、華やいだ雰囲気で大いに賑わいました。

まつりのフィナーレは、大仙市の祭りらしく打ち上げ花火で締めくくりました。新型コロナウイルスの厄除けとともに、無病息災や学力向上を願う大小「花火灯籠」の上高く、華や

かなスターマインは大仙市協賛の花火です。「四ツ屋小学校エール花火」など、約700発の大輪が、四ツ屋地区の空を明るく彩りました。

11月17日、四ツ屋小学校三年生以上の児童111人が、響屋大曲煙火(株)の皆さんと打ち上げ場所の花火玉破片拾いの清掃活動をしました。従来は花火打ち上げ担当してくださる響屋大曲煙火(株)独自でやりましたが、今年は児童たちが地域のためにと、率先して行ったものです。



「秋田県民歌」でオープニングを飾った



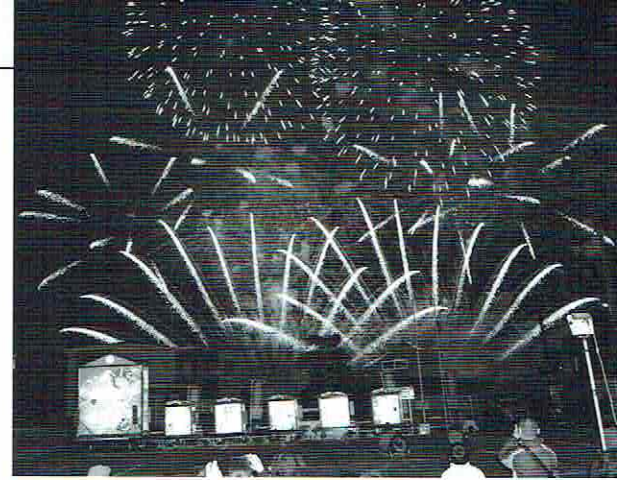
華やかな大農郷土芸能部の皆さんの勢ぞろい



「ほえみシスターズ」が踊る「四ツ屋まつり音頭」も会場を盛り上げた



荻生田文部科学大臣から授賞された表彰状盾



花火灯籠の上まつりの華 スターマイン



入場者には検温が行われた



新型コロナウイルス感染防止の消毒は厳しく行われた



翌朝、花火玉の破片を拾って大掃除をした

大仙市立四ツ屋公民館

四ツ屋公民館は元気なまちづくりや地域活性センターを目指し、四ツ屋地区の住民からなる「四ツ屋地区コミュニティ会議」（藤井隆夫会

優良公民館として 文部科学省から表彰される

大仙市立四ツ屋公民館（児玉庄司館長）は令和2年2月14日東京の文部科学省で、荻生田文部科学大臣から、公民館活動として優れた成果をあげられ、社会教育に多大な貢献をしたとして表彰されました。

も大いに奨励・支援して地域社会に定着をしました。このまつりは、盆踊りや神社のお祭りが途絶える中で、地域住民の結束が希薄になっていく事に気付いた若手有志が、公民館を中核にして「新しい祭りを作って、子ども達

長）や、地元の学校・保育園・その他関係団体との連携、協働による多くのイベントを実施しています。特に平成22年から開催し、今年十一回を迎えた「四ツ屋まつり」は地域住民あげてのイベントとして、大仙市当局

にみせたい」との発案がきっかけでした。その3年後、祭りの運営主体となる「四ツ屋青年塾」（佐々木克也会長、会員）が結成されました。また公民館活動として、国土交通省や文科省、環境省と連携して玉川沿いに整備された「水辺の楽校祭」、「大仙教育めそっど」に添って老人クラブや婦人会、民生児童委員などの協力を得て、様々な、三世代交流活動を積極的に推進する、「ゆりの木の集い」の取組みを行うなど活発な活動を展開しています。これは四ツ屋公民館が20年以上前から、「地域活性化に寄与できる子どもの育成」を目指した、四ツ屋小学校との連携・協同で行っている活動です。

にみせたい」との発案がきっかけでした。その3年後、祭りの運営主体となる「四ツ屋青年塾」（佐々木克也会長、会員）が結成されました。また公民館活動として、国土交通省や文科省、環境省と連携して玉川沿いに整備された「水辺の楽校祭」、「大仙教育めそっど」に添って老人クラブや婦人会、民生児童委員などの協力を得て、様々な、三世代交流活動を積極的に推進する、「ゆりの木の集い」の取組みを行うなど活発な活動を展開しています。これは四ツ屋公民館が20年以上前から、「地域活性化に寄与できる子どもの育成」を目指した、四ツ屋小学校との連携・協同で行っている活動です。

第12回・東京で「大曲の花火」を観る会

中止のお知らせ

「東京で「大曲の花火」を観る会」は、ふるさとを想い、ふるさとを誇る大イベントを偲ぼうと毎年2月、東京で開催して来ましたが、

令和3年2月も開催に向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルス禍は一向に収束の兆しが見えないことから、幹事会で「中止」を決定いたしました。今後の活動についても幹事会で議論し、会員には決定次第、会報や郵便でお知らせします。

雪蔵銘醸
出羽鶴

TEL 0187 (63) 1224
FAX 0187 (66) 2277

大地の恵みとともに
秋田の心を醸す

伝統の銘酒
刈穂

http://www.igeta.jp/
e-mail info@igeta.jp

秋田県大仙市戸部谷天ヶ沢八三の「

雪蔵銘醸の秋田産米を醸す

カメラ紀行

埼玉県指定の旧跡

難波田城公園 (Nabata-jo Park)

旅人 小川 康

(埼玉県富士見市在住)



異常に長かった十月の雨が過ぎ去り、関東平野にも秋色濃くなった十一月の初め、愛用のカメラを手に、近くの「難波田城公園」を尋ねました。澄んだ秋風が肌に心地よい日でしたが、散策する人も少なく、大都市郊外の公園特有の混雑もなくのんびりとカメラのシャッターを切る事ができました。埼玉県富士見市の「難波田城公園」(なばたじょう)は、中世に活躍した難波田氏の居城跡です。規模は5万平方メートル以上の広さ。園内には、資料館のほか、水堀や土塁を復元した「城跡ゾーン」と、富士見市内の古民家を移築して、昔の埼玉の農村景観を再現した「古民家ゾーン」があります。



復元木橋、発掘調査のとき出土した橋脚をもとに復元された橋

水堀や土塁を復元した城跡ゾーン

難波田氏は、平安末期から鎌倉時代にかけて、武蔵の国在住の土豪が組織した同族の集団です。戦国時代の難波田氏は、扇谷上杉氏の重臣として活躍しましたが、川越合戦で大敗後は北条氏に仕え、江戸時代には旗本になりました。古民家ゾーンは、富士見市に残された古民家を移築し、かつての広々とした農村風景を再現しました。

水堀に映る古民家が美しい





右は、綺麗に整備された古民家ゾーンの一部に、澄みきった空をバックに黄葉した銀杏の木が、深まる秋を告げていた。上は水堀にかかる木橋



富士見市指定文化財 旧大澤家住宅



富士見市指定文化財 旧金子家住宅



「水堀と土塁」 難波田城は三重の堀と土塁に囲まれた平城だった



富士見市内の古民家を移築

農村風景を再現

難波田氏館跡の標識が、この地の歴史を語る



6月の季節は水堀に咲く蓮の花も有名

(撮影は6月)

首都圏大曲会は、大仙市の「ふるさと納税」に協力します



秋田県産1等米アキタコマチ10kg (豊嶋満商店)



お試し移住体験住宅「youkoso」



特別協賛 秋田銀行
ふるさとCM大賞

一人ひとりの

情熱と力

で大仙市の魅力を発信しよう！

「ふるさと納税」は、国民の義務である税金とは違います。しかし私たちが生まれ育ったふるさとの発展に貢献しようとする気持ちがある、具体的に寄付金として、直接ふるさと大仙市の役にたっています。令和元年度、大仙市に寄付された「ふるさと納税」は、前年度を大きく上回る160,032千円でした。昨年度は初めて、全国47都道府県全ての地域の方々から、熱く支援されるという快挙を成し遂げました。

全国47都道府県から限なく「ふるさと納税」が集まることは、ふるさと大仙市の魅力を広く知って貰うことが大事なことです。私たち一人ひとりが、大仙市の魅力を語り、普及させること

が大事です。「花火のまち」や、「アキタコマチ」原産地として、話題は尽きません。返礼品も一番人気は「アキタコマチ」。香りがよく、食感の良さが特徴で、旨味・甘味・粘り・歯ごたえなどパランスの良さは、他の品種の追従を許さないと好評です。

従来から首都圏大曲会は、「ふるさと納税」には積極的に協力してきました。総会の開催が出来ない今年度は、会報誌上で、会員のみな様の更なるご協力をお願いします。

活用事業は、「ふるさと就職者奨学金償還免除推進事業」、「自治会育成支援事業」、大仙市に移住促進するため、市の魅力を体験できるお試し移住体験住宅「youkoso」を整備しました。他に、シティプロモーション事業として、PR広告、SNS、ふるさとCM大賞など、大仙市の魅力を発信として活用されました。

『ふるさと大曲』第29号

令和2(2020)年12月30日

編集人：首都圏大曲会 発行人：大 釜 茂 璋

〒162-0054 東京都新宿区河田町6-6

教育情報プロジェクト気付

電話：03-3341-6339 Fax：03-6273-0081

e-メール：info@e-prosjp.com http://www.supportlife.com

印刷・製本：秋田協同印刷株式会社

外国人技能実習生受入団体

だいすき協同組合

代表理事 赤木 達司

TATSUSHI AKAGI

携帯/090-1353-7455 E-mail/dc284752@kg8.so-net.ne.jp

□東京本部

〒154-0024

東京都世田谷区三軒茶屋1丁目39-7 ライオンズ「ステーションプラザ」三軒茶屋604

TEL 03-6320-0117 FAX 03-6320-8339

思い出の中の大曲

昭和35年ごろの須和町界限（旧寺町）



田口さんの自宅から見た須和町2丁目の田植え風景
(昭和35年頃)

懐かしい光景は、それを見た目とともに、それを食した味となつて、舌や胃の満足感と一緒に残ることもあります。今でも冬が来ると、見られるかどうか定かではありませんが、私たちが子どものころは、粉雪が舞う季節ともなると、大曲駅前の広場を抜けて、現在の羽後バス停留所の通りには「大学いも」を売る出店が数軒出来るものでした。「九里よりうまい十三里」などと小旗が寒風にはためき、白い割烹着のおばさんが、通りかかると声をかけていました。

私はこの甘い「大学いも」が大好きで、母と一緒に大曲のまちに出たときは、特別な用もないこの通りに無理やり誘ったものでした。苦笑いしながら母が買ってくると、店のおばさんはここにこ愛想よく、古新聞でつくった紙袋に入れて渡してくれました。

写真提供 田口 元也さん

懐かしい「大曲の写真」を探しています。

私たちのふるさと大曲を懐かしく振り返ることは、ふるさとを想い、ふるさと貢献につながる活動です。会員や「ふるさと大曲」読者の中で、懐かしい、当時の大曲の写真をお持ちの方は、ぜひ会報編集部までお知らせください。その場合、何を写した写真か、簡単な説明を付記してください。

ご連絡先 〒162-0054
新宿区河田町6-6 首都圏大曲会事務局
メール：info@e-pros.jp.com

ところで上の写真は昭和35年の頃と言いますから、今から60年前、現在の須和町二丁目界限です。昔は寺町と呼んでいたようですが、それは大川寺の影響でしょう。しかしこの地の鎮守である諏訪神社があることから須和町に地名が統一されたと思いますが、諏訪町でないのが不思議です。とは言っても「大曲のまち」のイメージから言えば、たった60年前のこの界限が一面の田園地帯だったとは、今ではまったく信じられません。須和町に隣接する若葉町にある県立大曲工業高校は、その当時は大曲中学校校舎の建つ敷地でした。大曲中学校は中良野地区の田んぼの中の学校でしたから、須和町が寺町と言われていた頃のこの地域が、一面の田園地帯だったとしても、何の不思議はありません。しかしこの60年間の様変わりには驚くほかほかはないのです。(大)

編集後記

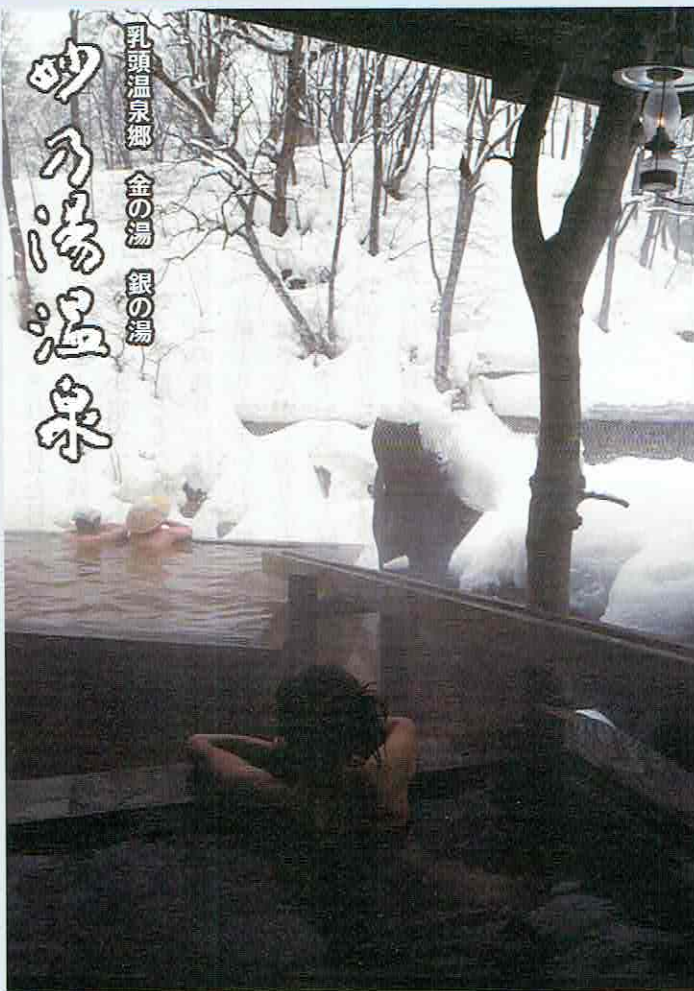
▼月並みな表現ですが、新型コロナウイルスに明け暮れた2020年でした。開催が予定されていた東京オリンピックは延期され、首都圏大曲会を初め大仙市首都圏ふるさと会の総会も軒並みに中止。その上楽しみにしていた伝統の「大曲の花火」も来年に延期されるという、思ってもない事態が発生したことは、残念の一言では片付けられない思いでした。▼随想特集、「わがふるさと大曲」懐かしいあの頃、あの風景」を、様々な方々に寄稿頂きました。大仙市まちづくり課の川原主任が、「大曲の夜空に大輪の咲く日を待ちわびる」で、延期されたこの夏の花火に代わり、毎週大仙市の夜空に花火を打ち上げてくださった地元元花師たちの心意気を書いてくださいました。さすがは「花火のまち」、新型コロナウイルスに負けない活気ある大曲の夏の報告は胸を打ちました。この心意気をしっかり受け止める来年夏が楽しみです。▼栗林前市長がこの秋の叙勲で旭日中綬章を受賞されました。長い間にわたり、大曲市から引き続き大仙市長として地域に尽くされた功績は筆舌に尽くせません。首都圏大曲会として心からお祝い申し上げます。▼「大仙市で活躍する企業」は、大曲エンパイヤホテルを取材しました。新型コロナウイルス禍をもろに影響を受けた業種の中にホテルなど宿泊業も含まれます。大曲だけでなく秋田県を訪れる人々に、「安心して宿泊出来る手頃のホテル」として、お勧めしたいと強く思いました。(大釜)

憩い 安らぎ 癒しの宿

秋田・十和田湖・八幡平国立公園

ここ乳頭温泉郷は、七湯の、素晴らしい良質の宿が点在しています。中でも妙乃湯は、関西から見た東の「金泉・銀泉」の二源泉を併せ持った誇れる宿です。また、こじんまりした秘湯の素朴さ、古きに新しさのバランスを兼ね備えた趣のあるいで湯で、非日常のときをゆっくりお楽しみください。

〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-1
電話0187-46-2740



乳頭温泉郷
金の湯 銀の湯
妙乃湯温泉



影瀬温泉
都わすれ

秋田・田沢湖・抱返り溪谷 県立自然公園

田沢湖と角館の中ほど。音もなく雪降り積もった冬の朝。広い敷地と周囲の山々に包まれた「都わすれ」は、客室わずか10室。

全室抱返り溪谷を見渡しながらのかけ流し露天風呂付き。人里離れた理想郷で、静かに流れる至福のときをどうぞ。

〒014-1113 秋田県仙北市田沢湖卒田字夏瀬84
電話0187-44-2220